


ニューズレター
2013年 8月 Vol. 74号

子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

自信を持って世界へ発信！ ～ 新しい役員が決まりました ～

平成 25 年 5 月 26 日（日）の CAPNA 総会において、役員 の 退任 及び 新任 が 承認 され、新理事 長 として 兼田 智彦 さん が 選任 され ました。新役員 の 在任 期間 中 である 平成 26 年 9 月 14 日～ 17 日 には 第 20 回 ISPCAN 子 ども の 虐待 防止 世界 会議 名古屋 大会 も 開催 される 予定 されて います。また、わが国 の 児童 虐待 問題 は まだ 多く の 課題 が 残 されて おり、その 状況 の 改善 を 願う 会員 の 皆さま や 多く の 市民 の 方々 が、CAPNA の 活動 に 変わらぬ 期待 と、ご 支援 や ご 協力 を 下さ っています。そこで、新たに 理事長、副理事長、及び 理事、監事 に 就任 された 方々 から、それぞれ の CAPNA と の 出会い を 振り返り、現在 の 活動 の 紹介 や これ から の CAPNA の 活動 へ の 期待 など について 語 っ て いた だ きました。

CAPNA 理事長 兼田智彦

18 年前、いのちの電話で矢満田さんに誘われてこの活動に参加しました。当時は「虐待ってなに？」という時代でしたが、虐待問題へ関心が高まり国の施策も進み、NPO もさまざまな活動を行っています。総合的に見れば、子ども虐待の問題は少しずつ前進していると思います。しかし、毎年発表される子ども虐待の認知件数は増えるばかりです。

CAPNA は 1998 年「見えなかった死」を発表し、日本で初めて虐待で亡くなった子どもの実態を明らかにしました。この調査がきっかけとなり、その後厚生労働省が同じ調査を続けています。

この調査を見てわかるように、2007 年は 1 年 3 カ月ですので、除外するとして 2009 年からは虐待死の数は減っています。虐待死が氷山の一番上だとすると、その裾野である虐待の数もあまり変わらないのではないかと推測できます。つまり、これまで泣き寝入りしていた子どもたちが救われるようになったはずです。

そういう意味では私たちの活動は効果があり、もっと自信を持って活動をしてほしいと思います。

来年 9 月には、第 20 回 ISPCAN 子どもの虐待防止世界会議名古屋が開催されます。その時、私たちは日本の優れた母子保健や子どもへの施策を世界に向けてアピールしたいと思います。そして、世界の実情を知り、今後の活動に生かそうではありませんか。

| | 1995 | 96 | 97 | 98 | 99 | 2000 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 |
|------|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 虐待死 | 55 | 60 | 64 | 56 | 61 | 71 | 80 | 74 | 73 | 71 | 56 | 61 | 78 | 67 | 49 | 51 | 58 |
| 無理心中 | 35 | 45 | 44 | 72 | 62 | 64 | 54 | 56 | 65 | 46 | 30 | 65 | 64 | 61 | 39 | 47 | 41 |
| 合計 | 90 | 105 | 108 | 128 | 123 | 135 | 134 | 130 | 138 | 117 | 86 | 126 | 142 | 128 | 88 | 98 | 99 |

※1995年～2004年までの統計は、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち調べ

※2005年～2010年までの統計は、厚生労働省調べ、2007年のみ1月1日～2008年3月31日

※2008年からは年度統計

副理事長 萬屋育子

全国の児童相談所が対応した2012年度の児童虐待件数は6万6000件を超え、またしても過去最高となりました。2012年度に虐待で亡くなった子どもは99人と発表されました。

CAPNA設立のころに比べると児童相談所の対応はずいぶん変わりました。児童福祉司は増員され、専門職採用が職場の中核となり、関係機関・民間機関との連携も多くなり虐待通報に迅速に対応するようになりました。それでも虐待件数は増え続ける一方です。

今、民間NPOのCAPNAとしてできること、求められていることはなんだろうと考えました。児童相談所は虐待通報への対応、児童の一時保護で手いっぱいです。少なくとも私は在職中そうでした。虐待予防、被虐待児・虐待親の治療と家族再統合、虐待で保護された後のいわゆる社会的養護にある子どもたちの問題など、手つかず、あるいは十分でないところがたくさんあります。そして児童相談所やCAPNAの存在を知らずに虐待を受けている子ども、虐待をしている大人もまだまだたくさん存在しています。こういうところに手を伸ばしていけたらと思います。特に虐待で最も多く死亡している0歳、0か月、0日の赤ちゃんについて、これまでの経験を生かしながら取り組みを進めることができると願っています。行政機関と連携しながら、それでも変なもたれ合いはせずにやっていきたいです。

みんなの知恵と力が集まれば怖いものなしです。と思って副理事長を引き受けました。CAPNAの皆さん、支援者の皆さん、よろしくお願いします。

理事 石田 公一

岐阜で児童相談の仕事をしながらか虐待防止キャンペーンなどの活動をしています。CAPNAは電話相談を活動の基本として、人材養成など様々なニーズを取り込みながら地域の児童虐待防止活動を深く且つ先進的に取り組んでこられました。その努力を積み上げてこられた多くの先人に本当に頭が下がります。

児童虐待防止法施行後14年目を迎え、地域の関係者が随時変動し、虐待防止活動がある意味ルーチン化していくかに見える昨今、地域や機関同士のネットワークを常に強化していく努力が必要です。その要として民間団体としての役割は大きいのは？と問題意識を持って取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

理事 井上直美

会員の皆さん、こんにちは。来年のISPCANのプログラム委員になったことから、理事に加えてもらうことになりました。研修をやらせてもらうなど、CAPNAとのかかわりは長いものの、これまでは受身の姿勢でした。しかし、心理職として入って3年目になる乳児院の現場で、虐待のために施設で育たざるをえなかった人たちが、仕方なく預ける赤ちゃんたちと出会っています。自分にできることに限りがありますが、ここまで生きてこさせてもらった幸せに感謝しながら、子どもと

家族の支援に力を尽くしたいです。どうぞ、皆さんと協力させてください。よろしくお願いいたします。

理事 松岡典子

三重県で14年にわたり、子育て支援・虐待防止活動を行っています。CAPNAとの出会いは、2000年12月の日本子どもの虐待防止学会愛知大会でした。当初団体を設立して間もない時期に偶然この学会の開催をしり、参加し、規模の大きさもさることながら、民間団体が主体となって、こんな素晴らしい学会ができるのかと、大変感銘を受けました。

以来10数年、同じ地域で先進的な虐待防止活動をしているCAPNAの存在は私たちの励みでもあり、民間団体としての役割を教えてくれる大きな存在です。今回そのCAPNAの新理事に就任させていただき光栄に存じます。微力ながらCAPNA活動の推進に寄与できたらと思っています。よろしくお願いいたします。

監事 高橋昌久

前理事長の高橋です。十数年前、CAPNA事務局に患者さんへの対応法の参考を聞こうと電話をして、それ以来の付き合いです。今は、産業医として労働者のメンタルヘルス対策として子育て支援の話をしたり、看護学校や大学の講義の一部で児童虐待をとりあげながら、開業医として小さな医療法人の経営をメインに、地区医師会や小児科医会の仕事を精力的にしています。

どうしても仕事柄、私の活動半径は小さく濃くなっています。CAPNAにはその逆に、行動範囲をおおしく広げて行ってほしいと思います。ここ数年はその時期です。まずは目の前の大きな大会ですね。準備も運営も大変でしょうが、がんばりましょう。

◇お疲れ様でした、そして、これからもご支援ください

このたびCAPNAの役員を退任された方々は、下記の通りです。これまでのご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事 高橋昌久さん、 理事 安藤明夫さん、 理事 石田まり子さん、
理事 湯原悦子さん、 理事 井上 薫さん、 監事 岩城正光さん

ISPCAN 名古屋のロゴ

**第20回 ISPCAN 子ども虐待防止世界会議・名古屋
が、2014年9月13日（土）～17日（水）に、
名古屋国際会議場で開催されます！**

メインテーマ「子ども中心の社会に向けて：過去から学び、未来に向けて行動しよう」

—サブテーマ—

- 1 子ども虐待に対応する社会制度の発展への挑戦
- 2 世代間連鎖を断つ子どもと家族のケア
- 3 妊娠期からの親子支援
- 4 子ども虐待の予防と虐待の被害者の治療など、虐待対応に関わる機関・人材の育成
5. 災害の被害を受けた子どもたちのための社会制度の開発

http://www.jaspcan.org/wp-content/uploads/2012/12/ispcan_leaf.pdf

—日程— 2013年

9月13日（土） 開発途上国プログラム、ユースプログラム

9月14日（日）、15日（月） JaSPCAN・ISPCAN 合同大会

9月16日（火）、17日（水） ISPCAN 大会

ISPCAN (International Congress on Child Abuse and Neglect : 国際子ども虐待防止学会) は、1977年に子ども虐待とネグレクトに対する治療と予防を世界規模で研究、実践するために設立されました。会員数は、約1,000人(125カ国)。世界大会は2年に1回各国持ち回りで開催されており、第19回世界会議は、トルコのイスタンブールで2012年9月に開催されました。

第20回世界会議のメインテーマには、1962年にアメリカの小児科医Henry Kempe博士がbattered child syndrome (被殴打児症候群) という呼び名で医学雑誌に論文を発表してから50年を経過したことから、子どもを最優先した社会をめざすために過去から学び、未来に向けての活動を構築するという意味が込められています。しかも、2014年には日本子ども虐待防止学会の学術集会も同様に第20回目を迎えるため、共同開催するにふさわしい大会となります。

開催地の名古屋市・愛知県を拠点として子ども虐待防止活動に取り組むCAPNAは、地元地域で官民挙げて世界会議の開催を応援するために「第20回ISPCAN子ども虐待防止世界会議・名古屋支援実行委員会」を組織しました。そして、2013年6月30日（日）に第1回目の委員会を開催しました。実行委員会には、①歓迎部 ②広報部 ③ボランティア部 ④ユースプログラム部の4つの部会を設け、早速、2013年8月4日（日）にユースプログラム部会を開催しました。また、第2回の支援委員会は8月31日（土）に開催される予定です。世界会議を成功させるために、多くの方々が実行委員としてご協力下さいますようお願い致します。

なお、世界会議の前日9月13日に開催される予定のユースプログラムは、参加国のユースとの共催となりますが、まずは地元の愛知県及び周辺地域の子どもや若者たちに呼びかけ、彼らが中心と

なって、各国のユースと連携しながら、企画・運営していく体制を整える計画です。世界会議のメインテーマにふさわしく、子ども中心のプログラムが実現できますよう、どうぞ会員の皆様のご支援とご協力を宜しくお願い致します。

気持ちを一つにして頑張ろう！ CAPNA 関係者の懇親会を開催しました

CAPNA は、今年で設立 17 年目を迎えました。ホットラインの開設から始まった活動も、現在では、メール相談も含めた電話相談と、危機介入、調査研究、社会啓発、援助・予防を 5 本柱にするまでに広がっています。しかし、児童虐待防止法の成立からすでに十数年が経過し、児童虐待に対する市民意識の高まりや関係機関の活動が拡充するなかで、近年、次なる課題に挑戦し続けていくことの難しさに直面しています。特に、最近は財政的にも厳しい状況に陥っているため、沈滞モードも懸念され始めていました。

そんな時、「最近、みんなで CAPNA のこれからを自由に語るような機会がないんじゃない？」という意見が出されました。そして、電話スタッフや事務局スタッフ、理事や会員が交流し、改めて意志の疎通をはかろうではないかということになりました。

8 月 8 日（木）に開かれた懇親会（会費制）には、40 名以上が参加しました。まず、兼田理事長の「CAPNA が続けてきた活動に自信をもって、世界に発信していこう！」という挨拶に始まり、参加者がそれぞれ、近況報告や CAPNA の活動を通して感じていることなどを語りました。スピーチの合間には、電話スタッフの柴田さんの「まねっこでいいから」（内田太郎・文、味戸ケイコ・絵、瑞雲舎）という絵本の朗読もありました。抱っこを知らない女の子が、ママに「まねっこでいいから抱っこして」とおねだりしました。「とっくん、とっくん」二人は互いのいのちの音を聞きました。そして、やがてその女の子とお母さんの抱っこは、まねっこをくりかえしていくうちに、ほんものの抱っこになりました。「とっくん、とっくん」というあたたかいいのちの音が、心地よく心の奥に響いてくるような朗読でした。また、理事の木村さんも、時々、保育園児の前で披露しているという楽しい手品を披露して、会場に笑いの渦を巻き起こしました。そして、あっという間に時間が経ち、名残惜しい気持ちを感じながらも、最後に参加者全員で気持ちを一つにして一本締めを行って閉会となりました。

長年 CAPNA にかかわって来た人も、最近、電話スタッフや会員になった人たちも、それぞれの思いがつながっていることを確認し、誰もが「また頑張ろう！」と、元気をもらった一時でした。

[写真を挿入する](#)

最近の活動の状況

◇電話相談

2013 年度(4 月～7 月)末日)電話相談結果報告 (速報値)(Excel)を挿入する

相談員の声

研修を終え、電話相談員になってようやく丸 2 年が過ぎた。

たった 2 年で相談員と胸を張って言えるにはまだまだと、電話相談中そして電話を終えてから自分の無力さに気付かされるのである。

そんなわたしたちを先輩相談員のみなさん、同期の仲間たちが厳しくそして温かくフォローし、ピアカンファレンスすることで、電話相談にでることができている。

悲しいかな、虐待の文字がテレビや新聞から消えることがない状況が続いている。今まさに虐待を受けている子どももいれば、虐待の連鎖や過去の虐待に十分に大人になった現在も苦しんでいる人たち、発達障害の子を持つ親の想い、0 歳児の虐待死の数値の高さから始められた予期しない妊娠相談と内容は様々だが、すべてがそうしたくてこうなったわけではないのだ。

子どもたちが、お腹いっぱい食べ何の心配もなく眠れる……。そんな当たり前のことを普通に送ることができる日常であってほしい。

『小さい人が笑顔でいられますように』 そう願いながらこれからも電話の前に座ろう。

「はい、CAPNA ホットラインです」

(木曜グループ・杉本)

◇メール相談の現状

今年度に入り 7 月末までのメール相談受信件数は合計 282 件で、そのうち 79%222 件が虐待関連の相談となっています。虐待をしている虐待者本人からの相談が 13%29 件、虐待を受けている被虐待者からの相談が 57%127 件、目撃・通報の相談メールが 30%66 件となっています。

虐待者本人からのメールは、育児にさまざまなストレスを抱えて子どもを虐待している 20 代 30 代の母親からのものがほとんどで、電話では話せないのもメールだと訴える相談も多々あります。

メール相談の特徴と感じる 57%127 件の被虐待者からのメールは、その多くが 10 代の若者からです。幼い頃から親に受け続けている不適切な関わりを、これは虐待ではないのか、自分は虐待されているのかと気づき始めて声を上げるようになったメールが寄せられます。

思春期以降、助けを求め始めた子どもへのフォローと、子育てをする親への子育て支援はまさに車輪の両輪ですが、親が虐待を認識する必要性を痛切に感じるメール相談です。

◇シェルター事業

| 月 | 受付先 | 経路 | 利用者 | 内 容 | 判断 | 支援 |
|----|-----|-----|---------|-----------|----|------|
| 5月 | 事務局 | 弁護士 | 母、子ども1人 | DV ケース、虐待 | 該当 | 利用 |
| 6月 | 事務局 | 機関 | 母、子ども1人 | DV ケース、虐待 | 該当 | 利用 |
| 6月 | 事務局 | 機関 | 母、子ども2人 | DV ケース、虐待 | 該当 | 利用なし |
| 6月 | 事務局 | 機関 | 母、子ども1人 | DV ケース | 該当 | 利用なし |
| 7月 | 事務局 | 機関 | 母、子ども1人 | DV ケース | 該当 | 利用なし |
| 7月 | 事務局 | 機関 | 母 | DV ケース | 該当 | 利用なし |
| 8月 | 事務局 | 機関 | 母、子ども1人 | DV ケース | 該当 | 利用なし |

◇セミナー、講演会、その他

- 4月17日（水）養子縁組あっせんを考える院内集会（衆議院第一議員会館、出席者：萬屋育子、兼田智彦）
養子縁組あっせん法案公聴会（主催：野田聖子事務所、出席者：萬屋育子、兼田智彦）
- 5月15日（水）・16日（金）講演会「母子手帳から始める予防的支援」（講師：ヘネシー澄子）NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO と共催
- 5月19日（日）第22回ウォーカーソン&チャリティーフェスティバルに参加
- 6月6日（木）平成25年度愛知県児童虐待対策セミナー実施事業（第1回）「子ども虐待の早期発見と対応」
I 「児童虐待とは」（講師：川崎二三彦）
II 「平成25年度死亡事例検証委員会提言から」（講師：前田清）
III 「児童虐待への対応の実際」（講師：伊藤俊典）
- 6月29日（土）中部大学にて研修会（講師派遣：林恵美子）
- 7月26日（金）平成25年度愛知県自殺ハイリスク者対策モデル事業
「自殺や精神疾患についての正しい知識や留意点を学ぶ（講師：関口純一）」

◇理事会、総会、その他の会議

- 4月17日（水）理事会
- 5月7日（火）ISPCAN 名古屋大会・支援実行委員会
- 5月30日（日）ISPCAN 名古屋大会・支援実行委員会
- 5月26日（日）第18回定時総会・相談員全体会
- 6月19日（水）理事会
- 7月11日（木）理事会
- 8月4日（日）ISPCAN 名古屋大会・ユースプログラム会議

事務局たより

水野真由、齊藤由紀

6月から兼田智彦理事長が事務局長を兼任することとなりました。主に事務を担当する水野と、会計を担当する齊藤の三名体制で新たにスタートしました。

水野と齊藤は事務局に加わってから一年未満ということもあり、前任者に確認を取りつつ常に手探り状態での事務局運営となっております。皆さまにご迷惑をお掛けすることがないように努力しておりますが、様々な面でご協力をお願いすると思っておりますので、そのときはよろしくお願ひします。

*事務局では事務をしています。日々の業務に追われてバタバタとしていますが、どうぞ皆様宜しくお願ひします。(水野真由)

*齊藤由紀です。事務局に会計担当として加わり、この8月でようやく1年経過しました。まだまだ分からないことが多いですが、みなさまにご迷惑をおかけしないよう頑張りますので今後ともよろしくお願ひします。(齊藤由紀)

ご寄付 次の皆さまからご寄付をいただきました。お礼申し上げます。

(4月～7月分、順不同、敬称略)

団体：国際ソロプチミスト名古屋 ・ 愛知県弁護士会

個人：今西洋子 ・ 青山康代 ・ 矢満田篤二

向山富雄 ・ 石川知子 ・ 坂本精志 ・ 匿名1名

【お詫び】 前回のニューズレターで「名古屋 SORA ゾンタクラブ」様を「ソラゾンタクラブ」様と記載ミスをしてしまいましたこと、お詫び申し上げます。